

日本原子力研究開発機構機関リポジトリ  
Japan Atomic Energy Agency Institutional Repository

Title	専門図書館を見る；公益財団法人日本交通公社 旅の図書館
Author(s)	権田 真幸
Citation	専門図書館, 258, pp.52-58
Text Version	Publisher
URL	<a href="http://jolissrch-inter.tokai-sc.jaea.go.jp/search/servlet/search?5040215">http://jolissrch-inter.tokai-sc.jaea.go.jp/search/servlet/search?5040215</a>
NAID	<a href="http://ci.nii.ac.jp/naid/40019616663">http://ci.nii.ac.jp/naid/40019616663</a>
Right	Copyright © 2013 Author

●専門図書館を見る

## 公益財団法人日本交通公社 旅の図書館

### 1. はじめに

先日、とある港町の食堂で、女店主と話をした。シーズンオフの平日とあって、客は私一人だけであった。

「うちの店、今度ガイドブックに載せてもらえることになったの」

「それはよかったですね」

「でも最近ガイドブックなんか買わずに、みんなインターネットで調べるんでしょ」

「ガイドブック買う人も結構いるんじゃないですか。特に海外なんか。国内でもガイドブック持って観光している人、よく見かけますよ」

「そうかしら。いずれにせよ、お客さん増えてくれれば、いいんだけど」

「私はさっき駅の案内所の人に紹介してもらって来ました」

「それはありがたいねえ。口コミも大事だわね」

あてどもない旅か、誰かに連れまわされるだけの旅でもない限り、旅人は旅立ちの前、その道中、さらには旅を終えた後までも、何かしらの情報収集を行う。その土地の観光名所、うまいもの、アクセス、歴史、宿……。その収集方法の主たるところはこの会話の中身が現状を表しているだろう。旅の情報収集も、他の分野と同様に多様化している。

この情報収集に図書館を活用することができる。まず思いつくのは、近所の図書館でこれから出かける先に関するガイドブックや歴史書を調べることである。一方、旅先で図書館に立ち寄り、地元ならではの郷土資料を手にとれば、より印象深い旅になるであろう。図書館であれば貴重な非市販資料や部数の少ない絶版資料も揃えているこ

とがある。筆者も観光案内所や地元書店で入手できなかった情報を、図書館で手に入れたことがある。昨今では、観光情報や地域情報の発信に力を入れる図書館も増えてきている<sup>1)</sup>。

今回紹介する「公益財団法人 旅の図書館」(以下、「旅の図書館」と言う)は、それとは対照的に、旅行前の情報収集に役立つ専門図書館である。実際には、旅のプランニングだけでなく、旅行や観光に関する資料を幅広く揃えており、気軽な閲覧や調査研究にも活用できる。筆者は原子力専門図書館に勤めており、分野や目的が異なるものの、一般に入手しづらい専門資料の収集・所蔵、独自の書架作りなど共通点も多く、また旅行を趣味としていることもあって、「旅の図書館」には以前から関心があった。このたび、平成24年(2012)7月19日に開催された専門図書館協議会関東地区協議会主催の見学会に参加する機会を得たので、本稿ではその際にお伺いした内容を交えながら、「旅の図書館」を紹介する。

### 2. 「旅の図書館」の概要

#### 2.1 沿革

「旅の図書館」は観光文化の振興を図ることを目的に、財団法人日本交通公社(現・公益財団法人日本交通公社)が昭和53年(1978)10月に旧称「観光文化資料館」として開設した専門図書館である。運営を担う公益財団法人日本交通公社は明治45年(1912)3月、ジャパン・ツーリスト・ビューローとして発足し、その後現在の名称に改称された。日本交通公社と聞くと、旅行会社のイメージが強いが、あちらは昭和38年(1963)11月に旅行部門を株式会社日本交通公社(現・株式会社ジェ

イティービー)として分離したもので、公益財団法人日本交通公社は、旅行・観光の健全な発展を目指し、観光文化の振興に寄与することを目的に、調査・研究を行う公益法人として活動している。

## 2.2 所在地

「旅の図書館」は平成24年(2012)4月、東京駅八重洲中央口近くの八重洲ダイビル地下1階にリニューアルオープンした(写真1)。八重洲地下街に直結しており、東京駅から雨にぬれることなく、訪れることができる。遠く新青森、出雲市、高松、博多から電車一本で来られると言っては大き過ぎるが、交通至便な場所にあることは間違いのないだろう。東京駅と各地と結ぶ高速バスも頻繁に発着しているし、羽田空港や成田空港のアクセスも便利である。逆に言えば、「旅の図書館」でひとたび旅気分になれば、すぐに各方面へ旅立つことができる。来館者調査の結果によると、利用者の大半は首都圏在住であるものの、全国各地から一定の利用があるようで、この地の利と無関係ではないだろう。開設当初は第一鉄鋼ビル1階にオープンし、平成8年(1996)10月に隣接する第二鉄鋼ビル地下1階に移転、そしてこのたびのリニューアルオープンとなるが、いずれも東京駅八重洲口に所在してきている。



写真1 「旅の図書館」の入口

「旅の図書館」に入館すると、まず受付カウンター、検索などに用いるPCコーナー、24席の閲

覧席を備える閲覧スペースが目に入り、その奥に開架書架や閉架の移動書架が並んでいる(写真2)。広いスペースではないが、地下にありながら明るい印象で、効率的に配置されている。詳細な配置は「旅の図書館」のホームページ<sup>2)</sup>を参照していただきたいが、利用者が自由に出入り可能なスペース以外に、館内事務所および書庫にも蔵書があり、それでも収まりきれないものは都内のトランクルームに別置保管されている。トランクルームにある蔵書は古書や稀覯書がメインである。これとは別に、公益財団法人日本交通公社の本部にある資料室があり、本部在籍の研究員が主に利用している。事前に予約すれば、トランクルームや本部の資料室の蔵書も利用できる。



写真2 閲覧スペースの様子

## 2.3 利用

「旅の図書館」は月曜日から金曜日まで(祝日、年末年始、棚卸し期間を除く)の午前10時から午後5時半まで開館しており、誰でも利用できる。土曜日・日曜日・祝日は開館していないが、夏季の旅行シーズンには勤め帰りに利用できるよう開館時間の延長を行っている。来館者調査の結果においても、土曜日・日曜日・祝日の開館を望む声は多いようで、平日しか開館していないのは残念である。館内には蔵書検索用のPCが備え付けられており、蔵書は館内で自由に閲覧できるが、館外への貸出は行っていない。なお、蔵書検索はインターネットを通じても可能で、ほかに複写サー

ピス、レファレンスサービスを行っている。

運営する財団法人日本交通公社が公益財団法人へ移行したため、事業にさらなる公益性が求められるようになり、旅行者への情報提供に加え、調査研究目的の利用者に対するレファレンスにも力を入れており<sup>3)</sup>、観光に携わる関係者に「旅の図書館」の存在を広くアピールすることに取り組み始めたとのことであった。

### 3. 「旅の図書館」の蔵書

これまで紹介してきたとおり、「旅の図書館」では一般の旅行者だけではなく、調査研究目的の利用者も満足できるよう世界各国や日本各地の旅行ガイドブックから観光研究の専門書まで、図書や資料を幅広く収集し、所蔵している。蔵書数は平成24年(2012)6月現在、図書が約32,000冊(旅の図書館：約29,000冊、古書・稀観書：約3,000冊、本部資料室公開分：約542冊)、雑誌が約320タイトルで、その他に多くの観光パンフレットなどを所蔵している。以下、「旅の図書館」の特徴ある蔵書を、コーナー別に紹介する。

#### 3.1 国内外の旅行関連図書

開架書架の中央に一番多くスペースがとられており、「旅の図書館」の核となるコーナーである。観光ガイドブックを中心に、国内外の旅行関連図書が日本十進分類法に基づき国別、都道府県別、テーマ別(宿泊、温泉、世界遺産、交通など)に配



写真3 国別の配架の例

架されている(写真3)。一般書店の旅行コーナーも、ガイドブックのシリーズ別に並べる書店と、シリーズに関係なく行き先別に並べる書店に大別できるが、後者と様子は似ている。テーマ別の書架はそのテーマで観光に役立つような図書を中心に構成されている。

#### 3.2 パンフレット・地図

前節で紹介した国別、都道府県別、テーマ別に配架された図書の先頭に国名や県名などが記されたケースが置かれている。これを開けると観光地のパンフレット及び地図、それに新聞の切り抜きなどが入っており、「旅の図書館」の蔵書の特徴となっている。観光ガイドブックなどではカバーしきれないような、旅行のプランニングに役立つ最新の資料が利用できるよう整備されている(写真4)。



写真4 ケースの中身

国内の資料はかつて各自治体に依頼して最新版を送付してもらっていたが、現在は各自治体の東京事務所などからの入手が主流だそうである。海外の資料も同様で、都内に所在する各国の政府観光局から提供を受けているほか、旅行に関する催事に赴き収集しているそうである。

なお、蔵書とは異なるが、「旅の図書館」は自館のパンフレットにもこだわっており、今回のリニューアルオープンに伴い、観光バリアフリーの観点でパンフレットを新調した。色やレイアウト

のほか、発行年月の記載など、工夫がなされている。最近は大いぶ改善されてきたものの、「旅の図書館」で収集している観光パンフレットにも発行年月がないものが多く困っているようで、そうした視点がパンフレット作りに活かされている。筆者は趣味として旅行や交通に関する案内や地図を蒐集しているが、やはり発行年月がなく、他の記載内容から推定することがあり、特に戦前の資料は特定が難しいことがあるので、この苦労話には納得した。

### 3.3 雑誌・機内誌

図書や地図・パンフレットを囲むように雑誌架が配置されている。旅行関連雑誌だけでなく、専門誌や交通趣味誌、観光研究に利用できる業界誌やニュースリリースなど幅広いジャンルの雑誌が、種類ごとに雑誌架に配架されている。中でも、機内誌は「旅の図書館」の特徴あるコレクションの一つである(写真5)。機内誌は定期購読可能なものや旅行会社や空港などで配布されているものもあるが、基本的には飛行機に乗らないと入手できないもので、日本に就航している約40社の航空会社が並ぶコーナーは圧巻である。これらは航空会社からの寄贈によるもので、新興航空会社や最近日本に就航した航空会社もフォローしている。なお、鉄道会社の車内誌も相当数収集しており、機内誌と同様に貴重なコレクションである。高速バスの発展に伴い、最近はバス車内誌も増えてき



写真5 航空会社の機内誌

ているので、これらもぜひコレクションに加えられるとよいと思った。

### 3.4 時刻表

旅のプランニングに欠かせない時刻表も「旅の図書館」の大きな位置を占める蔵書である。簡単な時刻の検索はインターネットでできるようになってきたが、冊子体のニーズもまだ根強い。「旅の図書館」では、JTB時刻表およびその前身を中心に、トーマスクックやOAG(Official Airline Guide)など、国内外の時刻表を収集しており、最新号は雑誌架の1コーナーに揃えてある。バックナンバーはガイドブックのバックナンバーなどとともに、図書館奥の閉架の移動書架に保存されている。国内の鉄道時刻表は、欠号があるものの、明治5年(1872)からの約600冊を保管しており、利用の多いコレクションの一つである(写真6)。



写真6 時刻表のバックナンバー

時刻表のバックナンバーは鉄道趣味者の利用の他に、テレビ局や新聞社による著名人の回想に関連した鉄道移動スケジュールの裏付けや個人による過去の旅行スケジュールの確認など、過去の足跡の調査を目的とした利用があるそうである。これは、出版物としての日本の時刻表の正確さと、日本の鉄道が時刻表どおりに運行されてきていることで、初めて可能となっている使い方と言える。

### 3.5 観光研究に関する図書・資料

先に紹介した業界誌やニュースリリースなどの他にも、公益財団法人日本交通公社が自主財源を用いて作成・発行しているレポート、観光関連の調査報告書、国内外の統計資料や白書、紀要・論文など、観光研究に関する専門書を備えている。このコーナーは十進分類法ではなく、独自の分類を用いて配架されている。

面白いところでは、JTBの旅行商品のパンフレットの合冊版がある。旅行会社の店頭を飾っているパンフレットは多種多様であるが、このうち、基本的なパンフレットを期間別に合冊版にしたもので、本来は旅行会社の業務用に作成されたものである。この合冊版は人気観光地や価格の変動などの分析にも活用できる研究資料として、研究者の利用があると言う(写真7)。



写真7 旅行商品パンフレットの合冊版

### 3.6 閲覧用PC

「旅の図書館」の閲覧スペースに隣接してPCコーナーがあり、検索用PCとともに、2台の閲覧用PCが供えられており、閲覧・印刷利用が可能である。

一つは『旅』『ツーリスト』の閲覧用PCである。『旅』は大正13年(1924)4月に日本旅行文化協会の機関誌として創刊され、戦争による休止もあったが、日本で一番長く発行された月刊旅行雑誌である。松本清張の代表作である「点と線」が連載されたほか、多くの著名作家による紀行文が掲載

された人気旅行雑誌であったが、平成16年(2004)に株式会社ジェイティービーから株式会社新潮社に譲渡されたのち、平成24年(2012)1月で休刊となった。一方の『ツーリスト』は大正2年(1913)からジャパン・ツーリスト・ビューローにより年6回発行された日本語、英語の会報誌である。いずれも現在は刊行されていないが、これらを冊子体で創刊号から多く所蔵しているほか、この閲覧用PCで利用できる<sup>4)</sup>(写真8)。

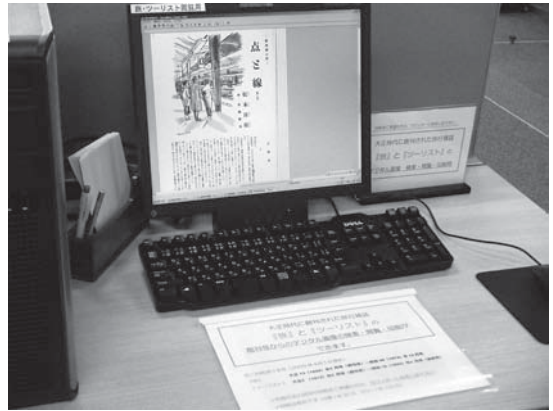


写真8 『旅』『ツーリスト』閲覧用PC  
(表示されているのは「点と線」の第1回)

もう一つは電子ジャーナル閲覧用PCである。“Journal of Travel Research”、“Cornell Hospitality Quarterly”、“Journal of Travel & Tourism Marketing”の3専門論文誌が利用できる。

### 3.7 古書・稀観書

「旅の図書館」は観光に関する古書・稀観書も多数所蔵している。日本交通公社発行の旅行案内、戦前のガイドブックやパンフレット、満州関係の資料、観光関連の専門書などが中心で、館内事務所や都内のトランクルームなどに別置されている。見学会当日は、大正13年(1924)発行の『鐵道旅行案内』、大正15年(1926)発行の『朝鮮満州旅行案内附支那旅行案内』、昭和7年(1932)発行の『臺灣鐵道旅行案内』といった戦前の案内書をはじめ、戦後初のハワイのガイドブックである昭



写真9 古書・稀覯書の展示

和38年(1963)発行の『JTBガイドブック アロハハワイ』など、貴重な蔵書を書庫やトランクルームから出納し展示して下さった(写真9)。

観光は多様な分野と関連しているので、「旅の図書館」で所蔵している古書・稀覯書は様々な研究に活用できると思われる。社会科学関係のレファレンスを行う上で、記憶にとどめておきたいコレクションである。

### 3.8 企画展

「旅の図書館」では、年4回ほどテーマを定めた企画展を実施している。見学会当日は「ロンドンオリンピック」をテーマとした企画展を実施しており、ロンドンやオリンピックに関連した図書やパンフレットを集め、館内の目立つ場所にブース展示していた(写真10)。この企画展は1ヶ月の準備期間を経て、2ヶ月間実施するそうで、最近では東北新幹線新青森開業に伴う「さらに遠くの青森へ」や「今年の夏は避暑地でロングバケーション」など、イベントや季節にあわせたテーマで実施しており、利用者の旅行気分を盛り上げている。

### 4. さいごに

冒頭で述べたように、旅の情報収集の方法は多様化してきている。図書館の活用はおろか、ガイドブックや地図を用いず、インターネットの情報



写真10 ロンドンオリンピックの企画展

収集だけで済ませてしまうことも多くなってきていると思われる。しかしながら、インターネットを通じて得られる情報は限定的であり、また使いづらいつころもあるので、紙媒体も重宝されている。「旅の図書館」は、その豊富なコレクションでそのニーズに応じてくれるし、開設当初の名称が示すとおり、観光文化を後世に伝えて行く役割を担っている。これらの使命は今後も変わらないだろう。

最後に、今回の見学会で案内して下さった金子明彦館長、渡邊智彦主任研究員をはじめとする「旅の図書館」の皆様、見学会参加と本稿執筆の機会を与えて下さった専門図書館協議会の皆様に厚くお礼申し上げます。とくに、渡邊智彦主任研究員には、専門図書館の運営について意見交換を行う時間を取っていただいた。分野は異なるが、共通の課題や参考になる部分が多々あり、筆者の所属する原子力専門図書館の運営にも大変有益であった。記して感謝申し上げます。

**公益財団法人日本交通公社 旅の図書館**

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-1-1

八重洲ダイビル地下1階

<http://www.jtb.or.jp/library/>

**休館日**

土曜日、日曜日、祝日、12月29日～1月4日、  
棚卸し期間

**開館時間**

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時30分

**参考文献**

- 1) 最近の動向は特集, 観光ポータルとしての図書館. 図書館雑誌. 2012. vol.106, no.8, 526-541. に詳しい。

- 2) 旅の図書館. <http://www.jtb.or.jp/library/>  
(参照2013-2-3)

- 3) 渡邊智彦. 「旅の図書館」のレファレンス活動: 旅・旅行・観光に関する「知」の体系化を目指して. 図書館雑誌. 2012. vol.106, no.8, 552-553.

- 4) 『旅』は昭和49年(1974)までが閲覧用PCで閲覧できる。また、昭和50年(1975)～平成16年(2004)は移動書架に保存されている。

独立行政法人 日本原子力研究開発機構  
研究技術情報部 情報メディア管理課  
権田 真幸 (ごんだ まゆき)